



戦後 **70** 年

# はじめに

豊中市は、昭和 58 年（1983 年）10 月 15 日に「非核平和都市宣言」を行いました。以来、毎年 8 月を「平和月間」と定め、さまざまな事業をとおして、市民のみなさまに平和について考えていただく機会を提供しています。終戦から 70 年を迎え、被爆や戦争体験の風化が懸念されるなか、豊中空襲など地域で起こった身近な問題も取り上げ、平和の大切さ、戦争の悲惨さを伝えるさまざまな催しを市内公共施設等で行っています。その一環として、わたしたちのまち豊中の平和へのあゆみをまとめた冊子「へいわ」を作成いたしました。

平成 28 年(2016 年)3 月

贈  
広島市花  
夾竹桃

## 目次

平和都市をめざして	3
非核平和都市宣言	
非核平和に関するモニュメント・記念樹	
豊中空襲	5
豊中市における戦災の状況	
空襲による被害	
機銃掃射の痕跡	
焼夷弾の構造	
史料の公開	
まちなかの記憶	9
平和と戦争を考える日	11
沖縄市とのつながり	13
交流のはじまり	
兄弟都市宣言	
沖縄市というまち	
豊中の中学生、沖縄戦を学ぶ	
共に歩む平和への道	15
日本非核宣言自治体協議会	
平和首長会議	
詩人と平和	17



真の恒久平和と安全の願いは人類共通のものである。

しかしながら、核軍備競争は依然として続き、今や人類は自らを破滅させる危機に直面している。

わが国は世界で唯一の被爆国として平和を望む全世界の人々とともに人類の安全と生存のため核兵器廃絶に向けて積極的な役割を果たさなければならない。

豊中市は日本国憲法にうたわれている平和の理念を基調に、非核三原則の厳守を求め、核兵器廃絶を訴え、平和と安全のために貢献する決意と共に、市内での核兵器の生産、貯蔵、配備はもちろん、その通過を許さないことを表明し、ここに非核平和都市となることを宣言する。

(昭和 58 年 (1983 年) 10 月 15 日)

非核平和都市宣言

# 平和都市をめざして

モニュメントと記念樹



## 「三つの願い」

非核平和都市宣言、人権擁護都市宣言、青少年健全育成都市宣言という三つの都市宣言を記念し、宣言の精神をアピールするとともに、まち並みにうるおいをつくりだすために、昭和 63 年(1988 年)6 月に庄内駅前に設置されました。

このモニュメントには、「戦争のない平和で安全な社会を」、「すべての人々の人権が擁護された心豊かな社会を」、「青少年が健やかに成長できる明るい社会の実現を」という三つの願いが込められており、その姿は、市の花「バラ」を持った 3 人の天使が支え助け合っていて、いのちの歓びや親しみ、温かさを表現しています。  
阪急宝塚線庄内駅 (庄内東町 1 丁目) 東側



## 平和の呼び笛

非核平和都市宣言を記念して、昭和 60 年(1985 年)3 月に設置しました。

像は、笛を吹く少女の周りに、小鹿、小熊、ウサギ、リス、アヒル、小鳥が寄り添うように配置されていて、平和な地球環境の実現への願いを表現しています。  
阪急宝塚線曾根駅 (曾根東町 3 丁目) 付近



## 峠三吉顕彰詩碑

戦後 50 年・被爆 50 年の節目に、豊中市出身の詩人峠三吉の詩碑を建立しました。峠三吉は広島市内で被爆し、36 歳で亡くなるまで、原爆の非人間性と人間の平和の願いを詩につづり、訴え続けました。市は、詩碑の建立により、非核平和都市宣言の理念を次世代に伝えようとしています。  
岡町図書館 (岡町北 3 丁目) 入口付近



## 被爆アオギリ・クスノキ (二世)

非核平和都市宣言 20 周年を記念して植樹した記念樹です。日本非核宣言自治体協議会から贈られたもので、広島で被爆したアオギリの二世と、長崎で被爆したクスノキの二世です。  
市役所第二庁舎 (中桜塚 3 丁目) 東側駐車場内



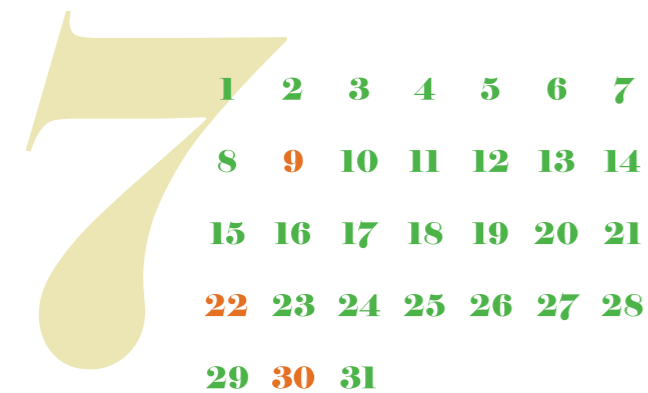
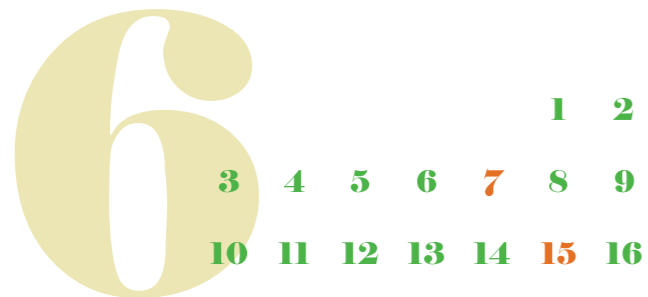
## 原爆被爆者植樹

昭和 61 年(1986 年)5 月 14 日、2 本の記念樹が、広島・長崎の被爆者等で組織される「ヒロシマ・ナガサキ被爆者の会」によって、阪急曾根駅前の花壇に植樹されました。植樹されたのは、広島市の市花キョウチクトウと長崎市の市花アジサイの 2 本でした。平成 18 年(2006 年)の阪急曾根駅前広場の整備工事に伴い豊島公園 (曾根南町 1 丁目) 南側エリアに移植が行われ、アジサイはその後、より生育に適した場所として同公園の北側エリアに再度移植されています。



## てしまの塔

戦争による犠牲者を偲び、その冥福を祈ると共に、人類の恒久平和を願って昭和 43 年(1968 年)3 月 20 日に建立されました。豊島公園 (曾根南町 1 丁目) 内 (柵で囲われています)



昭和 20 年（1945 年）の 6 月と 7 月のカレンダーです。

- 6 月 7 日
- 6 月 15 日
- 6 月 26 日
- 7 月 9 日
- 7 月 22 日
- 7 月 30 日

2 ヶ月の間に、豊中の町は 6 度の空襲を受けました。  
その被害は大阪で 3 番目に大きなものでした。

# 豊中空襲

## 豊中市における 戦災の状況

### 空襲等の概況

昭和 12 年（1937 年）、日中戦争が始まると、当時豊中市で最も工業が盛んだった南部の庄内地域では、機械器具工場や化学工場などが、軍需用として転用され始めました。また、同年、民間専用の公共飛行場である大阪第二飛行場（現大阪国際空港）の建設が市西部で開始されましたが、昭和 16 年（1941 年）12 月に太平洋戦争が始まると、工事途中で空港輸送は全て軍事用に組み込まれました。

昭和 17 年（1942 年）ごろになると空襲に備え防空演習が盛んになり、各家庭では火たき棒や防火用水、砂袋が用意されました。また市内の中学生も次々に軍需工場に動員されるようになりました。

昭和 20 年（1945 年）に入ると、米空軍が来襲し、東京、大阪、神戸を始めとした主要都市への無差別爆撃が行われるようになりました。やがて大都市への無差別攻撃は地方都市に拡大していき、大阪の衛星都市豊中にも戦火が及ぶようになりました。豊中市は、昭和 20 年（1945 年）6 月 7 日に始まり、続く 6 月 15 日、6 月 26 日、7 月 9 日、7 月 22 日、7 月 30 日の計 6 回の空襲を受け、多数の死傷者を出しました。

### 市民生活の状況

昭和 11 年（1936 年）末になると、全国の市町村の多くが防護団を結成して防空演習を行いました。豊中市でも、防災体制を固めるため、昭和 14 年（1939 年）に「豊中警防団」が設置され、市内各所に防火水槽が置かれるようになりました。市民に対しては、町内会や隣組を単位とした自衛防空・防火が要請され、警防団の指導のもとに防空訓練がしばしば実施されました。

また、同年には「米穀配給統制法」が施行され、米穀その他の主要物資はほとんど配給制となり、市民生活に大きな影響を及ぼしました。

昭和 16 年（1941 年）に太平洋戦争がはじまってからは、防空演習がますます盛んに行われるようになり、特に昭和 17 年（1942 年）4 月に東京が米軍の初空襲を受けた後は、焼夷弾攻撃に備える訓練に重点がおかれるようになりました。各家庭には、焼夷弾の火の粉をたいて消す縄の火たき棒や防火用水が用意され、家々には砂袋が積み上げられました。

昭和 19 年（1944 年）には、学徒勤労令が発せられ、若者たちは学業をなげうって不足した労働力の補充に当てられることになりました。市内の浪速高等学校、大阪薬学専門学校、府立豊中中学、府立豊中高等女学校、市立高等女学校では学徒隊が結成され、学生たちが次々に工場事業所等に動員されていきました。

### 空襲等の状況

豊中市に被害をもたらした空襲は、昭和 20 年（1945 年）6 月 7 日にはじまり、終戦の 8 月 15 日までの 6 回を記録しています。

このうち、最も被害が大きかったのは、6 月 7 日の空襲です。6 月 7 日の午前 11 時過ぎ、米軍 409 機の大型爆撃機 B29、138 機の戦闘機 P51 が大阪市内北部から豊中にかけて焼夷弾と機銃掃射の雨を降らせ、住宅地域であった刀根山地区、本町地区、千里園地区、玉井町地区、走井地区、小曾根地区では大きな被害が出ました。また、市南部では、庄内地区、豊南地区、神崎川右岸の工場地帯が爆弾・焼夷弾攻撃を受け、勤労働員先の工場で豊中中学（現豊中高校）や豊中高等女学校（現桜塚高校）の生徒の多くが死傷しました。

次いで 6 月 15 日・6 月 26 日にも、B29 による爆弾、焼夷弾攻撃を受け、7 月に入ってからも、3 回の空襲を受けましたが、空襲の規模は徐々に小さくなっていきました。7 月 30 日の空襲では、来襲した P51 のうち一機が高射砲で撃墜され、岡町地区に米飛行士が落下傘で降下するという事件がおきました。

この計 6 回の空襲で豊中市が受けた被害は、大阪府内では、大阪市、堺市に次いで 3 番目に大きなものとなりました。

「豊中市史 第三巻」「豊中市史 第四巻」、昭和 38 年、豊中市役所  
「新修 豊中市史 第九巻『集落・都市』」、平成 10 年、豊中市役所

より



米軍戦闘機 P51 のプロペラ  
7 月 30 日の空襲では、来襲した P51 のうち一機が高射砲で撃墜されました。そのプロペラは豊中市が所蔵しており、平成 28 年（2016 年）現在は大阪市内にある博物館「ピースおおさか」にて展示されています。

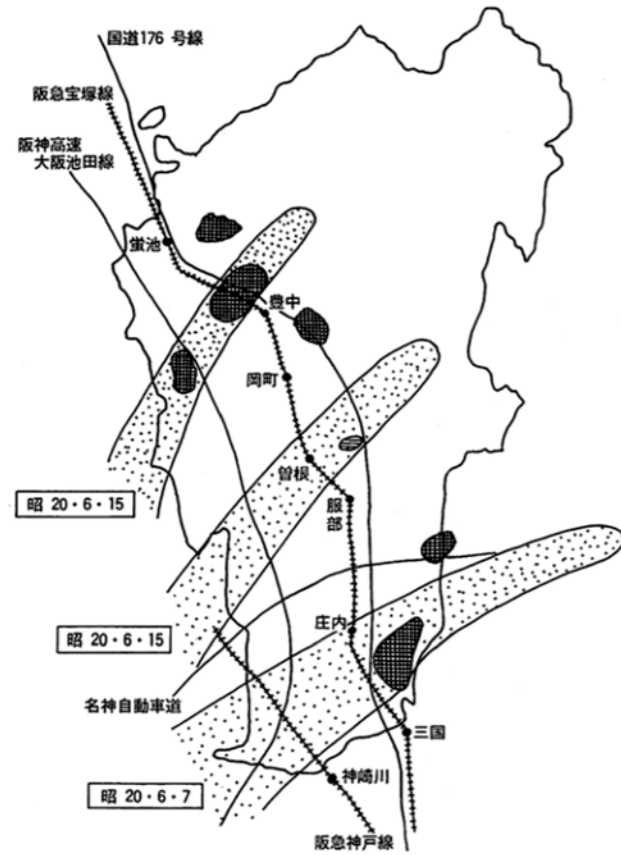
写真：豊中市教育委員会提供






戦闘機 P51

写真：U.S. AIR FORCE

## 空襲による被害



左の図は豊中市の被害地域図です。6月7日の空襲では、死者541名、行方不明者14名を含む10,176名が罹災し、6度の空襲のうち最も大きな被害となりました。また、この日の空襲では市内の軍需工場にも被害が出ており、押谷産業は3分の1が焼失、石産精工と三国航空機材は全焼しています。

-  焼夷弾落下地点
-  6月7日爆弾落下地点
-  6月26日爆弾落下地点

出典：私たちの郷土研究「豊中」第2号 豊中空襲  
豊中市立第一中学校 郷土研究クラブ編

### 空襲被害状況

地区	物的損害				人的損害				罹災者
	全焼	半焼	全壊	半壊	死者	重症	軽傷	行方不明	
6月7日 豊中駅周辺及び豊南地区・庄内地区	1,101	30	553	797	541	283	561	14	10,176
6月15日 中央部・西部地区	285	16	0	0	18	5	8	0	1,487
6月26日 曾根地区	0	0	57	115	14	13	17	3	925
7月9日 飛行場・新免地区	3	0	0	0	0	0	0	0	不詳
7月22日 中央部	3	5	0	0	0	1	0	0	不詳
7月30日 蛸池・飛行場周辺	3	0	2	4	6	5	2	0	不詳

機銃掃射等による被害も含まれています。

豊中空襲では、米軍機のB29やP51が飛来しました。空襲の際に豊中のまちに落ちた焼夷弾の一部が、利倉西の地中から見つかります。焼夷弾は束ねられ、大きな集束焼夷弾の形で落とされます。これが投下後個々の焼夷弾に分かれ、散らばって落下します。分離に使用される火薬によって、焼夷弾の揺れを防ぎ、正確に落下させる役割を持つ尾部のリボンが燃え、

あたかも火の雨が注ぐように見えました。やがて焼夷弾が屋根や地面などにぶつくと、先端部分に入った炸薬が爆発します。この爆発によって焼夷弾の筒部分が破裂し、内部の充填物が飛び散って高温で燃焼します。充填物はゼリー状をしていて、親油性のため、水を掛けても消火が困難です。6月7日の空襲では409機のB29が豊中を含む大阪北部に飛来しました。

B29は1機あたり3800発以上の焼夷弾を積むことができました。

投下されたのは焼夷弾だけではありません。1トン爆弾が落ちた千里園には直径20メートルほどの穴ができました。岡上の町に投下された1トン爆弾の破片は採取され、現在も保存されています。この爆弾は長さが2メートル以上、直径60センチほどもありました。



## 機銃掃射の痕跡

庄内神社（庄内幸町5丁目）の手水舎には豊中空襲で米軍機P51から受けた機銃掃射の跡が今も遺されています。いくつか弾痕があり

ますが、右の写真は柱を貫通して砕けた弾の破片を受けた梁を写したものです。表面に無数の小さな穴が開いているのがわかります。

## 焼夷弾の構造

複数の焼夷弾が束ねられて、集束焼夷弾の形で投下されます。集束焼夷弾の頭部にはおもりがあります。

数秒後、集束焼夷弾の火薬を用いて鉄バンドが解かれると、内部の焼夷弾が空中に離散します。

離散した焼夷弾の尾部のリボンが燃えながら落下します。1つのE46収束焼夷弾には38発の焼夷弾が詰められています。



大型爆撃機 B29 写真：U.S. AIR FORCE

## 史料の公開

平成27年（2015年）8月11日から20日までの間、市役所第二庁舎にて戦後70年の節目として豊中空襲展を行いました。この展示には豊中空襲で市内に落とされた1トン爆弾や焼夷弾の破片、さらに7月30日の空襲時に飛来し、高射砲で撃墜された米軍機P51のプロペラをはじめとする部品も展示しています。

上) 訓練用のなぎなたと木銃  
中) 左から、1トン爆弾の破片、焼夷弾の破片、焼夷弾の弾頭部の破片  
下) 撃墜されたP51の残骸



# まちなかの記憶

6度に及ぶ空襲を受け、多くの被害と犠牲者を出した豊中のまちなかには、今も空襲の記憶が残されています。



1

## ほむら野少女像

大阪府立豊中高等女学校は「ほむら野」のなかで、7名の生徒を亡くしました。5期生の生徒1名は昭和20年（1945年）6月15日阪神工業地帯を襲った空襲で江崎グリコ工場の動員中に焼夷弾の直撃を受けて死亡。

6月7日の豊中空襲の日に7期生の生徒2名はそれぞれ大阪機工の仕事で学校に行っていました。警報発令により早く下校するという指示が出たので急いで帰宅。その直後、家族とともに防空壕の中で被爆して亡くなりました。

同じころ、8期生の生徒3名は庄内にあった川西航空機の下請け工場「石産精工」への動員中に空爆によって16歳の命を散らしました。

6月26日、やはり8期生の生徒1名は学校の指示で走り帰り、曾根の自宅に命中した中型爆弾で父や姉とともに亡くなりました。このように、7名の尊い若い命が戦争の犠牲者となりました。（中桜塚4丁目）



2

## 記念碑

昭和20年（1945年）6月7日11時30分ごろ三国航空機材（株）（現在豊南町南にある三国金属工業（株））に動員していた学徒が爆撃を受け、教員1名、生徒8名が殉職しました。この怒りを忘れてはならないという思いで昭和49年（1974年）6月2日に建立しました。（岡上の町4丁目）



3

## 旧牛立火の見やぐら

空襲を知る数少ない遺構の一つ。住宅地に静かにたたずむ火の見やぐらと半鐘は、戦前に地元の鉄工所が作って寄付したものです。現在は半鐘を打ち鳴らして火事を知らせることはありませんが、自分たちの地域を守ろうというまちの人たちの気概を今に伝えています。（庄内東町5丁目）



4

## 庄内神社の機銃弾の痕

当時、庄内幸町周辺は田んぼでしたが、豊中空襲で大きな被害を受けました。現在もある庄内神社入り口の標柱には、豊中空襲時の機銃弾の弾痕が残されています。（庄内幸町5丁目）



5

## 追悼之碑

豊中市走井にある浄行寺に平成6年（1994年）に遺族の方によって建立されました。碑の裏面には、「昭和二十年六月七日太平洋戦争ニ於ケル本土空襲ニヨツテコノ走井ノ地域ニモートン爆弾ニヨル爆撃ガアリ四十有余名ノ尊イ生命ガ失ワレタ今五十年ノ歳月ヲ経テ従時ヲ思ビコノ悲シミヲ緑トシテ平和ヘノ願イヲコメテ共ニ怨ミナキ安ラギノ道ニ生キヨウ」と刻まれています。（走井1丁目）



7

## 三国金属工業（株）慰霊碑

三国金属工業株式会社は、現在スチール缶の製造で有名ですが、戦時中は三国航空機材工業（株）という名前のもと、迎撃戦闘機「紫電改」の部品を製造していました。

昭和20年（1945年）6月7日11時半ごろ、大阪市北部にやってきたB29の大編隊等によって、爆弾・焼夷弾・機銃掃射の攻撃を受けました。その結果、40余名の従業員とともに、府立豊中中学校（旧制）からの動員学徒8名、引率教師1名と金襴会高女の6名の学徒が亡くなりました。当時の社長は亡くなった方々の尊い生命のおかげに謝意を表すために、毎年6月7日に慰霊祭を行ってきました。その後も引き続き催行されています。（豊南町西4丁目）

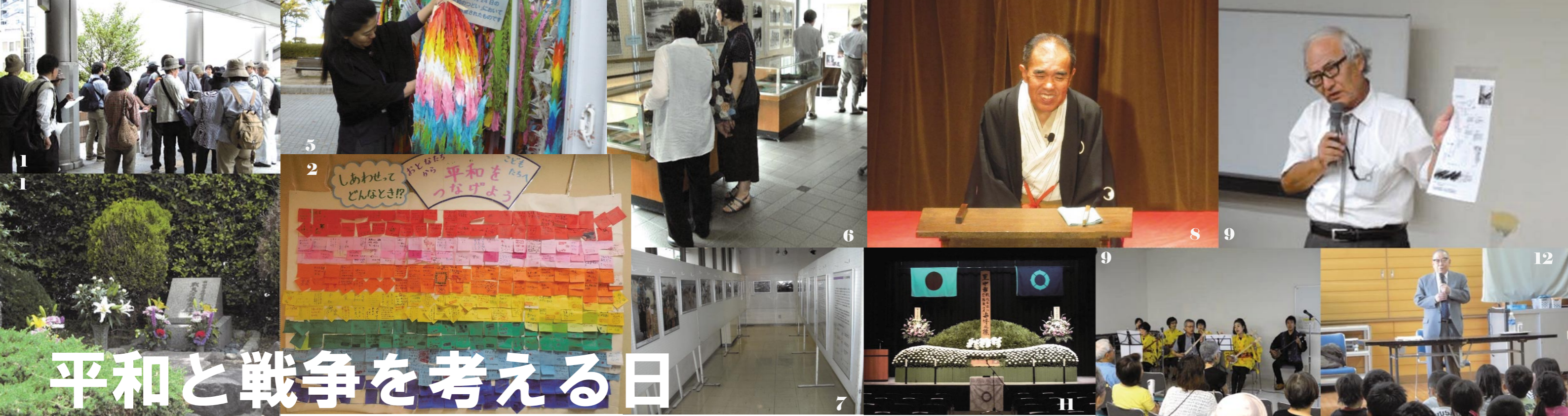


6

## 二軒家公園慰霊碑

昭和20年（1945年）6月7日の第3次大阪空襲（最初の豊中空襲）では、豊中市南部地区（旧庄内町や小曾根村など）に爆弾や焼夷弾等による爆撃を受け、中小の工場を有する現在の豊南町は大きな被害を受けました。この地域では、毎年河川敷で慰霊祭をしていましたが、木製の塔婆（慰霊碑）であったため、しばしば流水により慰霊場所の変更が行われてきました。そこで、地域として二軒家公園に恒久的な慰霊碑を建立することとし、昭和55年（1980年）10月26日に当時の大阪府知事の書をいただいて立派な慰霊碑を建立しました。現在も6月の第一日曜日に慰霊祭を行っています。（豊南町南5丁目）

注）ここに掲載した戦跡の中には、企業の敷地内にあるなど、通常は見学できないものが含まれます。



# 平和と戦争を考える日

豊中市では、毎年 8 月を平和月間と定めています。展示企画や講演会などの催し物を通じて、平和について考えていただく一助に、また、平和の大切さ、戦争の悲惨さを次の世代に伝える機会として。ここでは平和月間に行われたものを中心に、平成 27 年（2015 年）度に行った催しを紹介します。

## 1 戦後 70 年平和事業 歩いて学ぶ豊中空襲

市を北部と南部の 2 日に分け、戦跡を巡りました。案内は豊中空襲等の歴史研究に取り組む能登宏之さん（関西学院大学講師）で、解説には当時の写真や 1 トン爆弾の破片の実物などを用いました。空襲を知る方からも体験談を伺ったほか、当日慰霊碑のある公園で行われていた地元主催の慰霊祭に参加しました。

## 2 平和をつなげよう

豊中人権まちづくりセンターにおいて、おとなたちから子どもたちへ、平和への願いや気持ちを紙に書いて貼り、パネルを作りました。また、平和への願いを込めて鶴を折りました。7 月 18 日には地域の祭りに出店があり大勢の子どもや親子、高齢者が作成に参加しました。

## 3 平和標語入りレシート

平和月間中、市内図書館での貸出しなどに使用するレシート用紙に平成 27 年度平和標語の入賞作品を掲載しました。

## — 優秀賞 —

生きるとは  
平和な未来  
きずくこと

## — 佳作 —

ぶきをすて  
みんないっしょに  
手をつなぐ  
— 佳作 —  
話し合い  
理解し合うと  
近づく平和

## 4 1945 豊中空襲

～資料からたどる あの日の時～  
戦後 70 年が経ち、戦争を知る人が少なくなりました。豊中空襲について戦争資料からたどりその悲惨な事実を知ることにより、戦争の恐ろしさを語り継ぎ、命の尊さ平和の大切さを未来へつないでいく機会として催されたイベントです。蛍池公民館にて講演会とパネル・資料展を行いました。講師は豊中空襲等の歴史研究に取り組む能登宏之さん（関西学院大学講師）で、展示会初日には講師による資料解説がありました。

## 5 折り—ヒロシマとナガサキから考える—広島編・長崎編

戦後 70 年を迎えるにあたり、中央公民館において原子爆弾が投下された広島と長崎に焦点を置いたロビー展とアニメ上映会を行い、原子爆弾の脅威について再確認するとともに、平和の尊さを学びました。また、「千羽鶴を届けようプロジェクト」として、期間中に作成した折鶴を両市に送付しました。広島市へは 803 羽、長崎市へは 518 羽を送りました。

### 広島編

ロビー展「サダ子と折鶴—佐々木禎子さんが生きたヒロシマ—」  
アニメ上映会「つるのこつて」

広島平和記念公園にある「原爆の像のモデルになった佐々木禎子さんの生涯をたどりながら、広島原爆を紹介しました。

### 長崎編

ロビー展「8.9 を知る—ナガサキの原爆とその後—」

アニメ上映会「ながさきの子うま」

ロビー展では長崎の原爆被害と現在の長崎を紹介しました。アニ

メ上映会では長崎で被爆した母うまと子うまの物語を上映しました。

## 6 豊中空襲展

### ～忘れない 豊中空襲～

市役所第二庁舎ロビーにおいて、豊中空襲時の市民の生活や空襲のすさまじさを収めた写真パネルや発掘調査・遺跡調査で出土した資料等、110 点を展示しました。展示資料には焼夷弾・米軍 P51 の部品をはじめ、戦時下における警防団結団式の回覧板、米軍撮影の空襲地点の航空写真、爆弾の投下跡を示す「被害状況図」、臨時召集令状や出征兵士のたすき、防空頭巾や、空襲時の状況を体験者が描いた絵画、訓練に使用されたなぎなたなどが並びました。

平和への想いを新たにし、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代に伝えていく機会として開催しました。

## 7 戦火の中の子どもたち

庄内公民館において、パネル展「地域紛争下の子どもたち」とビデオ上映会「未来を下さい—戦火の中の子どもたち—」を開催しました。諸外国の難民のうち、特に子どもたちの置かれている状況について知るとともに、遠い外国の話ではなく自分たちの問題として平和について考える機会として開催しました。

## 8 旭堂南北一人語り ひ・ろ・し・ま

講師旭堂南北さんによる一人語り「ひろしま」は伝統芸能館が設立された平成 8 年度（1996 年度）から、同館にて平和を祈念して開催されている事業です。

プログラムはたいらまさお著「折り鶴の少女」と伊藤明彦制作被爆者の証言 CD「ヒロシマナガサキ私たちは忘れない」より「2015 年夏ヒロシマナガサキを語る」（一杉忠構成）の 2 部構成でした。アンケートからは、しみじみとした語りによって被爆者の無念さと苦しみが自然と心に伝わったことが感じられました。

## 9 戦後 70 年に見つめる平和～豊中・沖縄でつなぐ平和の架け橋～

千里公民館において、連続講座を行いました。

第 1 回「雲ながるる果てに～豊中育ちの脚本家 直井 欽哉さんからの手紙」では、直井さんが海軍飛行予備学生として体験した、豊中空襲等の戦争の悲劇について、当時の貴重な資料紹介を交えて学ぶ講演会を開催しました。講師は豊中空襲等の歴史研究に取り組む能登宏之さん（関西学院大学講師）でした。

第 2 回「島唄で伝える平和の心～戦後 70 年を振り返って～」では、平和への願いで結ばれた兄弟都市、沖縄市の代表的な文化であ

る島唄に込められた戦争の歴史と平和を希求する思いについて、三線と島唄の演奏を通じて学びました。講師は牧志徳さん（琉球（沖縄奄美）しまうた文化を考える会会長・SA とよなか指導者）でした。戦後 70 年が経過した今、平和への思いを礎として交流を深めてきた豊中市・沖縄市の両市において、地域の身近な学びの場で、戦争の歴史を振り返り、未来へつなぐ平和について人権の視点で考える機会として開催しました。

## 10 横断幕

平和月間中、豊中市役所渡り廊下外側壁面と豊中駅前平和に関する横断幕を掲出しました。

## 11 戦没者並びに空爆犠牲者追悼式

戦没者並びに空爆犠牲者を偲び、遺族を励ますとともに、戦争のない平和な社会の実現と人命の尊さについて考えることを目的に、昭和 28 年（1953）年から行っています。平成 27 年度は 10 月 2 日にとよなか男女共同参画推進センターすてっぷホールにて執り行い、156 名が参列しました。

## 12 被爆体験の伝承活動

戦争の悲惨さ、原爆の恐ろしさを次の時代を担う若い世代に伝えるため、原爆被害者の会の方が講師となり、伝承活動を行いました。毎年市内小中学校を中心に 15 校ほどで行っています。



▲豊中の中学生が平和大使として沖縄市を訪れたときの写真です。降伏調印式が行われた場所に碑が立っています。

# 沖縄市とのつながり

豊中市と沖縄市は戦後の交流をきっかけに兄弟都市となりました。兄弟都市宣言の宣言文には次のように記されています。「市民福祉と平和を祈念してここに兄弟都市であることを宣言する」沖縄市とはどのようなまちなのでしょう。豊中市とどのような関わりがあるのでしょうか。

## 交流のはじまり

豊中市と沖縄市の交流のきっかけとなったのは、昭和39年(1964年)10月当時の豊中市竹内義治助役(故人・昭和41年から市長)が、沖縄道路事情視察団の一員として沖縄を訪れた際に、コザ市(のちの沖縄市)の大山朝常市長(故人)と懇談する機会があったことでした。竹内助役は大山市長に、豊中には沖縄戦の遺族も多く、ほとんどの人が遺品も満足にない、何か形見になるものがあればと話していました。その2か月後の昭和39年

(1964年)12月、コザ市から、豊中の沖縄戦の戦没者の遺族にと、たくさんの小石と仏桑華(ハイビスカス)が届けられました。小石は沖縄戦没者慰霊奉賛会が最大の激戦地だった摩文仁海岸で拾い集めて入魂した霊石でした。昭和47年(1972年)に沖縄が本土に復帰し、昭和49年(1974年)にコザ市と美里村が合併して「沖縄市」が誕生。同年11月3日、沖縄市誕生市民祭典の場で、「兄弟都市宣言」に調印しました。姉妹都市ならぬ『兄弟都市』であ

るのは、沖縄の「いちやりばちよ一でえ(出会えば皆、兄弟)」という言葉に由来していると言われています。



## 兄弟都市宣言

豊中市と沖縄市の友好は昭和39年沖縄市が第2次世界大戦の戦没者遺族のために、豊中市に霊石と仏桑華を送ったことにはじまる。

以来、両市は都市問題、教育文化の交流を重ね相互の理解と信頼を深めてきた。

この歴史的背景のもとに、更に両市の友好と市民相互の交流を深め、市民福祉と平和を祈念してここに兄弟都市であることを宣言する。

昭和49年11月3日。豊中市長、下村輝雄、沖縄市長、町田宗徳

## 沖縄市というまち

沖縄市は沖縄本島中部にある中心的な商業都市です。豊中市が面積37km<sup>2</sup>人口394,102人(平成28年(2016年)3月現在)であるのに対し、面積は面積49km<sup>2</sup>、人口は140,793人(平成28年(2016年)3月現在)、沖縄県内第2の人口をもつまちです。国内では最大の地上戦が行われた沖縄県の中でも、とりわけ沖縄の歴史の縮図といわれた旧コザ市と美里村が昭和49年(1974年)に合併して沖縄市となりました。沖縄市は現在も、嘉手納飛行場などの軍用地が市域の36%を占めています。なお軍用地の内訳は、米軍基地が35.7%、自衛隊基地が0.24%です。

長く続いた基地依存経済からの転換を達成し、国際文化観光都市、非核平和都市を宣言しています。また、沖縄でも最もエイサーが盛んなまちでもあります。



▲沖縄の踊りエイサーは、先祖の霊を供養するための踊りです。平成26年(2014年)8月2日、沖縄市東青年会による「エイサー道ジュネー(練り歩き)」が行われ、豊中駅東から旧能勢街道、岡町・桜塚商店街までの行程を、27人のエイサー隊が力強い演奏とともに練り歩きました。

## 豊中の中学生、沖縄戦を学ぶ

平成26年(2014年)7月28日から30日までの3日間、豊中市内の中学生9人が平和大使として沖縄市を訪問しました。彼らは戦争体験者からお話を聞き、沖縄市の中学生と戦争と平和について意見交換を行うなど、交流を通じた平和学習に取り組みました。1日目：戦争体験者講話聴講、中学生平和大使交流会  
2日目：嘉手納飛行場内史跡など沖縄市戦跡めぐり  
3日目：那覇市内史跡など見学

また同年9月6日には豊中人権まちづくりセンターにおいて、平和講演会・平和大使相互学習報告会が行われました。講演会では、沖縄市職員の恩河尚さんをお招き

し、「沖縄戦と戦後復興」をテーマに、沖縄戦及び戦後史、沖縄を取り巻く平和問題について幅広くお話しいただきました。

講演会后、豊中市の中学生平和大使による相互交流学习の報告会が開催され、3日間の平和交流の内容紹介や、そこで学んだ沖縄戦、戦時中の衣食住の状況や学徒隊、基地問題などについてグループごとに発表しました。

▶平成4年(1992年)豊中市役所第二庁舎竣工を記念して市役所玄関前にシーサー像(作：宮城秀雄氏)が友好のシンボルとして贈られました。





# 共に歩む平和への道

豊中市は日本非核宣言自治体協議会と平和首長会議に加盟しています。どちらも平和な世界の実現のために取り組む組織で、日本非核宣言自治体協議会には国内 314 の自治体が、平和首長会議には世界 6,996 の都市が加盟しています（平成 28 年（2016 年）3 月 1 日現在）。どのような組織なのでしょう。



親子記者による取材  
放射線影響研究所



おやこ記者新聞



被爆クスノキ（左）と  
被爆直後のクスノキ（右）



被爆クスノキの苗木（左）と  
被爆アオギリ（右）



行進の様子

写真：(公財)広島平和文化センター提供（右 2 枚）



NPT 再検討会議  
NGO セッション

写真：長崎原爆資料館提供（上）

## 日本非核宣言自治体協議会

### 非核宣言自治体とは

非核宣言自治体とは、核兵器廃絶や非核三原則を求める内容の自治体宣言や議会決議を行った自治体のことです。現在、日本の自治体のうち 80 パーセント以上がこの非核宣言を行っています。

非核宣言自治体が世界に広がっていく契機となった最初の非核宣言は、昭和 55 年（1980 年）にイギリスのマンチェスター市で行われました。マンチェスター市は、米、ソ冷戦のさなか、核兵器の脅威をなくすため、自らのまちを非核兵器地帯であると宣言し、他の自治体にも同じような宣言をするように求めました。すぐにイギリス国内の多くの自治体が賛同しました。その後この宣言運動は世界に広がりました。日本でも、1980 年代からこの非核宣言を行う自治体が増え続け、現在では約 1,600 自治体が宣言を行っています。

### 設立の概要

日本非核宣言自治体協議会（会長 長崎市長）は昭和 59 年（1984 年）に広島県府中町で設立されました。設立の趣旨は「核戦争による人類絶滅の危機から、住民一人ひとりの生命とくらしを守り、現在および将来の国民のために、世

界恒久平和の現実に寄与することが自治体に課せられた重大な使命である。宣言自治体が互いに手を結びあい、この地球上から核兵器が姿を消す日まで、核兵器の廃絶と恒久平和の実現を世界の自治体に呼びかけ、その輪を広げるために努力する」というものでした。

### 活動について

会則で「この協議会は、非人道的核兵器の使用が、人類と地球の破滅の危機をもたらすことにかんがみ、生命の尊厳を保ち、人間らしく生活できる真の平和実現に寄与するため、全国の自治体さらには、全世界のすべての自治体に核兵器廃絶、平和宣言を呼びかけるとともに、非核都市宣言を実施した自治体間の協力体制を確立することを目的とする」とうたっています。協議会の事業としては、非核都市宣言に関する情報・資料の収集、調査・研究、非核都市宣言呼びかけのための活動、各自治体の平和事業推進などを行っています。豊中市では 30 周年の集会が行われ、長崎市長をはじめ、全国の自治体から参加がありました。

### 親子記者事業

被爆地の平和への取り組みを全国へ広め、核兵器廃絶と平和への

願いを若い世代へ伝えるため、会員自治体に在住する小学生とその保護者を記者として長崎へ招き、平和祈念式典や被爆者への取材などを行い、おやこ記者新聞を発刊します。また、長崎のフリーライターやイラストレーター、大学生などが新聞づくりをサポートし、親子記者と長崎の青少年や市民との交流も広がっています。

発刊した新聞はホームページに掲載し、会員自治体等へも配布します。親子記者は在住自治体の首長や学校の集会で報告するなど平和への取組みが広がっています。

### 被爆アオギリ二世

広島市の被爆の惨禍を生き抜いた樹木や、焼け焦げた樹木の株から再び芽吹いた樹木が、現在でも被爆樹木として爆心地から半径 2km 以内に約 150 本残っています。

この被爆アオギリ二世の親木のアオギリは、爆心地から北東 1.3 km にある旧広島通信局(広島市中区東白島町)の中庭で被爆しました。爆心地側の幹半分が熱線と爆風により焼けてえぐられましたが、焦土の中で青々と芽を吹き返し、被爆者に生きる希望を与えました。その後、このアオギリは昭和 48 年(1973 年)に平和記念公園

## 平和首長会議

### 平和首長会議とは

平和首長会議は、すべての加盟都市相互の緊密な連帯を通じて核兵器廃絶の市民意識を国際的な規模で喚起するとともに、人類の共存を脅かす飢餓・貧困等の諸問題の解消、更には難民問題、人権問題の解決及び環境保護のために努力することで世界恒久平和の実現に寄与することを目的に様々な活動を行っています。

### 設立の概要

昭和 57 年（1982 年）6 月 24 日、ニューヨークの国連本部で開催された第 2 回国連軍縮特別総会において、広島市長が、世界の都市が国境を越えて連帯し、共に核兵器廃絶への道を切り拓こうと、「核兵器廃絶に向けての都市連帯推進計画」を提唱し、世界各国の都市に連帯を呼びかけました。

平和首長会議は、この趣旨に賛同する都市（自治体）で構成された機構です。平成 3 年（1991 年）に国連経済社会理事会の NGO に登録されています。なお、平成 25 年（2013 年）8 月 6 日、「平和市長会議」から「平和首長会議」に名称変更しました。現在、役員には 15 カ国 16 都市の市長が就任（会長 広島市長）しており、世界 161 カ国・地域の 6,996 都市により構成

爆心地から南東へ約 800m のところにあった山王神社の 2 本のクスノキは、原爆の炸裂による強烈な熱線と凄まじい爆風により、大きな被害を受けました。一時は生存も危ぶまれましたが、その後樹勢を盛り返し、現在は長崎市の天然記念物に指定されています。そして、地域の人々や子供たちによって、原爆の恐ろしさと生命の尊さを伝えるものとして、大切に保存されています。21 世紀は、核兵器のない平和な自然環境を大切にす

る世紀にしたいとの願いを込めて、被爆クスノキの種から育てられた苗を配布しています。

### 核実験などへの抗議と要請

核保有国の核実験の実施などに協議会会長名で抗議を行っています。現在、核爆発を伴わない臨界前核実験や新型核性能実験も包括的核実験禁止条約(CTBT)の精神に反し、核兵器開発に繋がるものとして抗議を行っています。

また、日本政府へも要請を行っています。

されています。（平成 28 年（2016 年）3 月 1 日現在）

### 2020 ビジョンの目標

- ①全ての核兵器の実戦配備の即時解除：世界には今もなお、多数の核兵器が実戦配備されている。世界の市民がこうした脅威に直面している中、誤使用も含めた核兵器の使用を回避するため、全ての核兵器の実戦配備を即時解除することを求める。
- ②「核兵器禁止条約」締結に向けた具体的交渉の開始：核兵器の全面的廃絶に対する核兵器保有国の明確な約束等これまでの NPT 再検討会議等での国際合意を根拠に、各国政府に「核兵器禁止条約」締結に向けた具体的交渉を開始するよう求める。
- ③「核兵器禁止条約」の締結：核兵器の開発、製造、実験、備蓄、使用等の禁止及びその廃絶について規定する「核兵器禁止条約」が締結されるよう、各国政府等に要請する。
- ④平成 32 年（2020 年）を目標とする全ての核兵器の解体：厳格な国際管理の下、被爆 75 周年となる平成 32 年（2020 年）までに地球上の全ての核兵器を解体することにより、核の恐怖から解放された平和な世界の実現を目指す。

### NPT（核不拡散条約）再検討会議

平成 27 年（2015 年）NPT 再検討会議に合わせ、開催地のアメリカ・ニューヨーク市に出張しました。NGO セッションでスピーチし、各国政府関係者等に核兵器の非人道性や「核兵器禁止条約」の早期実現に向けた取組の必要性を訴えました。また、平和首長会議の主催で 3 つの行事を開催するとともに、関連する各種の会合に出席しました。さらに、各国政府関係者等との面会、平和首長会議からの要請文及び「核兵器禁止条約」の交渉開始等を求める市民署名の国連への提出等を通じ、核兵器廃絶に向けた一層の努力を要請し、核軍縮に関する情勢についての意見交換を行いました。

### 平和 NGO 主催集会・行進参加

平成 27 年（2015 年）4 月 26 日 NPT 再検討会議に合わせて開催された平和 NGO 集会で挨拶を行い、その後、参加者と共到大通りを行進し、平成 32 年（2020 年）までの核兵器廃絶をアピールしました。行進の終了後、アンゲラ・ケイン国連軍縮担当上級代表とタウス・フェルーキ NPT 再検討会議議長に「核兵器禁止条約」の交渉開始等を求める市民署名約 110 万筆の目録を手渡しました。



ちちをかえせ ははをかえせ  
としよりをかえせ  
こどもをかえせ

わたしをかえせ わたしにつながる  
にんげんをかえせ

にんげんの にんげんのよのあるかぎり  
くずれぬへいわを  
へいわをかえせ

(峠三吉 「原爆詩集」序より)

# 詩人と平和

この詩をご存じでしょうか。岡町図書館の玄関前に、この詩が刻まれた詩碑があります。豊中に生まれ、広島で被爆した詩人、峠三吉の「原爆詩集」より、「にんげんをかえせ」とも呼ばれ、詩碑にも刻まれている「序」と「八月六日」「死」を紹介します。原爆詩集にはこのほかにも彼の詩が収められており、市内の図書館でも読むことができます。

## 八月六日

あの閃光が忘れえようか  
瞬時に街頭の三万は消え  
押しつぶされた暗闇の底で  
五万の悲鳴は絶え

渦巻くきいろい煙がうすれると  
ビルディングは裂け、橋は崩れ  
満員電車はそのまま焦げ  
涯しない瓦礫と燃えさしの堆積であった広島  
やがてポロ切れのような皮膚を垂れた  
両手を胸に  
くずれた脳漿を踏み  
焼け焦げた布を腰にまとして  
泣きながら群れ歩いた裸体の行列

石地蔵のように散乱した練兵場の屍体  
つながれた筏へ這いより折り重った河岸の群も  
灼けつく日ざしの下でしだいに屍体とかわり  
夕空をつく火光の中に  
下敷きのまま生きていた母や弟の町のあたりも  
焼けうつり

兵器廠の床の糞尿のうえに  
のがれ横たわった女学生らの  
太鼓腹の、片眼つぶれの、半身あかむけの、丸坊主の  
誰がたれとも分らぬ一群の上に朝日がさせば  
すでに動くものもなく  
異臭のよどんだなかで  
金ダライにとぶ蠅の羽音だけ

三十万の全市をしめた  
あの静寂が忘れえようか  
そのしずけさの中で  
帰らなかった妻や子のしろい眼窩が  
俺たちの心魂をたち割って  
込めたねがいを  
忘れえようか！

## 死

泣き叫ぶ耳の奥の声  
音もなく膨れあがり  
とびかかってきた  
烈しい異状さの空間  
たち罩めた塵煙の  
きなくさいはためきの間を  
走り狂う影  
〈あ  
にげら  
れる〉  
はね起きる腰から  
崩れ散る煉瓦屑の  
からだか  
燃えている  
背中から突き倒した  
熱風が  
袖で肩で  
火になって  
煙のなかにつかむ  
水槽のコンクリ一角  
水の中に  
もう頭  
水をかける衣服が

焦げ散って  
ない  
電線材木釘硝子片  
波打つ瓦の壁  
爪が燃え  
踵がとれ  
せなかに貼りついた鉛の溶板  
〈う・う・う・う〉  
すでに火  
くろく  
電柱も壁土も  
われた頭に噴きこむ  
火と煙  
の渦  
〈ヒロちゃん ヒロちゃん〉  
抑える乳が  
あ 血綿の穴  
倒れたまま  
—おまえおまえおまえはどこ  
腹這いいざる煙の中に  
どこから現れたか  
手と手をつなぎ  
盆踊りのぐるぐる廻りをつづける  
裸のむすめたち  
つまずき仆れる環の  
瓦の下から  
またも肩  
髪のない老婆の  
熱気にあぶり出され  
のたうつ痲高いさけび  
もうゆれる炎の道ばた  
タイコの腹をふくらせ  
唇までめくれた  
あかい肉塊たち  
足首をつかむ  
ずるりと剥けた手  
ころがった眼で叫ぶ  
白く煮えた首  
手で踏んだ毛髪、脳漿  
むしこめる煙、ぶつつかる火の風  
はじける火の粉の闇で  
金いろの子供の瞳  
燃える体  
灼ける咽喉  
どっと崩折れて  
腕  
めりこんで  
肩  
おお もう  
すすめぬ  
暗いひとりの底  
こめかみの轟音が急に遠のき  
ああ  
どうしたこと  
どうしてわたしは  
道ばたのこんなところで  
おまえからもはなれ  
し、死な  
ねば  
な  
らぬ  
か

「八月六日」 語句… (一) せんこう (二) 閃光 (三) おしつぶされた (四) 屍体 (五) 血綿 (六) 瓦礫 (七) 兵器廠 (八) 糞尿 (九) がれき (一〇) 瓦礫 (一一) 瓦礫 (一二) のうしよう (一三) 脳漿 (一四) がらす (一五) いかだ (一六) 硝子片 (一七) 煙 (一八) のど (一九) 咽喉 (二〇) 喉 (二一) かかと (二二) 踵 (二三) こうおん (二四) 轟音 (二五) 轟音

へいわ

平成 28 年(2016 年)3 月

編集・発行 豊中市人権政策課

〒561-8501 豊中市中桜塚 3-1-1

電話 06-6858-2586

FAX 06-6846-6003